

令和 6 年度大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第 8 回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議 議事概要

日 時：令和 7 年 1 月 10 日（金）13:00～15:10

場 所：上川町役場大会議室（オンライン併用）

出席者：出席者名簿参照

1. 開会

2. 議事

（1）各機関・団体からの活動状況報告等

■資料 1-1 環境省からの活動状況報告等（永田・森田（由））

- ・令和 6 年度登山道維持管理・補修工事等実施概要、別紙 5：中岳裾合平線道路（歩道）事業を中心に概要を報告。

■資料 1-2 上川総合振興局からの活動状況報告等（中島主査）

- ・中岳裾合平線のクラウドファンディング事業は、昨年度に引き続き目標額を達成し、大雪山山守隊に委託して補修イベントを実施した。来年度まで継続して実施予定。
- ・赤岳第 4 雪溪手前の木道再整備は今年 2 年目。引き続き、来年度も山守隊と一緒に考えながら、施工を進めていく。
- ・赤石川で登山道保全セミナーを山守隊にイベントの補修作業の委託をして実施。ヤシ土嚢及びテンサーでの土留め施工を実施。
- ・北海道の登山道管理区間において北海道山岳整備に委託し、標識盤面更新、旭岳 9 合目ニセ金庫岩の遭難が多発した場所へ注意標識を設置。
- ・北海岳クジャク岩とヤンベタツ五色岳線（p34・35 のクチャンベツ五色岳線を訂正）の補修は、実際に施工いただいた北海道山岳整備の岡崎代表から簡単にご報告いただきたい。
- ・北海道山岳整備・岡崎代表より補足説明

クジャク岩付近で落石があったのは皆さんにも報告があったと思う。実際に自分も見てきたら結構危ない状況で、歩く場所が危ないのではなく、上からの落石がまだある可能性があるという危なさだった。歩けるか歩けないかと言えば山道はこんなところもあるというレベルだったが、かなりぐらつく石も多く、ちょっと危険度が高いということで施工した。路面は平滑になっている部分と、p32 の一番下の崩落箇所全景という写真の上の方が今回崩落した場所だが、そこにある浮き石をいくつか落とした。

ヤンベタツ五色岳線の入口のところは自分も前から気になっていた。ルートが変わったのが 20 年位前だったと思うが、そのあと当時の森林管理署の方が整備をされていたが、その木柵階段がほぼこごとく崩れていて、土砂崩れもあり、新しい踏み分け道がついていて、その浸食がかなり酷かった。植物がほぼほぼなくなり、これからどんどん裸地化が広がり、ガリーになるという直前の状態だと認識し、振興局の中島さんに、ここの部分をこういう形でやりたいとお願いをして、付近の倒木等

を使って2～3ヵ所を実施した。裸地の場所の土壌を留める施工を、周辺から植生が復元してくるよう、あとは人が歩いても問題ないという状態に仕上げた。ただ、ここは根本的にはこのルートを使い続けるのか、川の脇の方に新たな道を付けた方がよいのかは今後検討していくべき場所かと思っている。

■資料 1-3 十勝総合振興局からの活動状況報告等（吉澤主幹）

- ・ヤンベタツ五色岳線改修工事の実施結果及び今後の予定について説明。

■資料 1-4 Asahidake Trail Keeper からの活動状況報告等（藤代表）

- ・天女が原登山道、姿見の池園地での作業実施結果等について報告。

■資料 1-5 旭岳 VC からの活動状況報告等（大塚氏）

- ・姿見の池園地での補修作業結果について報告。

■資料 1-6 上川町からの活動状況報告等（畠山係長）

- ・白雲岳避難小屋等利用状況について報告。
- ・資料 1-2 のヤンベタツ五色岳線の補修作業について、8/28 実施分は上川町及び連携協定を結んでいるコロンビア社社員と、北海道山岳整備岡崎氏指導の下参画した旨報告。

■質疑等

・山岳レクリエーション管理研究会・山口代表

ヤンベタツ五色岳線の登山口の施工を何人と何日で実施したのかと、中岳裾合平線のクラウドファンディング事業の裏で実施されていた冬の荷運びについて教えて欲しい。両方とも良い出来をしているので、全体でどれだけの労力がかかったかを知りたい。

・北海道山岳整備・岡崎代表

前者は計3日間で、p34の地点が5人×2日、p35の地点がコロンビア社員を含めて20人×1日。実際は20人工いないとできない訳ではないが、イベントの一環というところもあったためこの人工となった。また、下見ができていたのが一番大きい。

・山岳レク研・山口代表

下見や計画も人工に入れるようにした方が良い。そうしないとういう仕上がりにはならないと思っている。同じく裾合平への冬の荷上げは結構大変だったと思うが、それも教えていただきたい。

・北海道山岳整備・岡崎代表

姿見の池園地から現場までスノーモビルで片道15分で行ける。1回150kg位で計算しても、時間で計算すれば2日ぐらいで終わる。ただ、実際には雪の日は全く行けずに待機であったり、道が悪い時には60kg位の往復になったりと状況は様々で、それらを勘案すると結構時間がかかる。更に、姿見の池園地まで資材8tを荷揚げして下さった旭岳ロープウェイの協力が大きかった。色々な協力がなくと全くできなかったため、それらも全部本当は人工に入れ込めないといけない。

以下、大雪山山守隊と北海道山岳整備からの報告。

3月はスノーモビルによる資材運搬を行った。愛山溪が4t、裾合平は8t程度運んでいる。また、忠別岳避難小屋、ヒサゴ沼避難小屋へのスノーモビルルート調査を行った。将来的に資材運搬やトイレのし尿運搬が間違いなくできるというところまでいった。

5月は裾合平でポールマーキングを行った。7,8年前から実施しており、今は登山アプリが活用されていて、そこまで道しるべが必要かという状況になってきたので、今後はどうするかを考え中。

8月11日に北海道の赤石川手前の整備、8月17、18、24、25日は裾合平の整備、9月1日は裾合平の登山道整備イベント、9月7、8日はトムラウシで木道を110mぐらいイベントで作った。9月15日には愛山溪で新規の木道43基を設置。

ヒグマ情報センター運営は環境省、上川町、北海道からの受託で実施。募金は3730人から52万4015円で、去年に比べると減っており、レクチャーの方法に改善点あり。携帯トイレブースは2カ所を運営し、各所の登山道整備も実施。

9月に入ってから興味を持って人に近づくヒグマが出没し、今までであれば完全にルートを閉鎖していたが、緑沼までの限定にして、ここの区間に数百m置きに人を配置した。そういう風に人を配置することを間違っているか否かを専門家にチェックしてもらい、なんとか10倍以上でやってみようという形で実施した。だがこのような体制はもう限界だ。人に近づくヒグマがいるところに巡視員を出したくない。何かあったら大雪山は終わりだと思う。保険をかけていて、「ヒグマに食べられたら保険が出ますか」と聞いたら出ると言っていたけど、限界がある。だから、これからどうしていけばいいのかを考えていかなければならない。巡視の一環としてセンタースタッフと一緒に周るとかそういうところまで考えていかないと、利用そのものができなくなると考えている。

ヒグマとの近距離遭遇は2022年は13件、2023年は17件だったが、今年度は30件と倍増している。しかも今まではクマがこちらに来るのは人に興味を持っているわけではなくて、単にクマの通行の場所に人間がいただけだったが、今回は、人がいたから近づいてくるというケースで、一段階か二段階、危険度が上がっていると考えている。

白雲岳避難小屋の協力金事業に関しては、整備の報告書は上川町さんにこれから見ていただいてから公表という形になる。去年、宿泊者と通過した人は合わせて2600人位で、そのうち整備の協力金を下さったのが2260人位なので、大体8割7分で例年と変わっていない。これは本当に皆さんのおかげ。協力してくれる人がいないとできないと言うのと、協力金に対して理解を持ってくれている。全国で比べても無理やり取っているところは別だが、8割を何年もキープしているところは少ないと思う。また、今年、特にやってもらったのは、整備人によるSNS投稿。やったらすぐ出せっていうこと。協力金が何に使われているかわからないと言う風に言われたことが結構あったので、時間をかけてでもいいから整備したところは全部SNSで上げている。その辺に関して報告書で出していきたい。

旭岳ビジターセンター、愛護少年団と10月5日に姿見の池園地での整備を行った。

北海道の誘導標識改善業務について補足すると、ここをこう変えてくれ、この表記は見づらい、こういう情報も入れてくれ、などの要望があったら言って欲しい。北海道にでもいいし、私たちの方でもいい。盤面の交換はすぐにできる。ちなみに、クマにはまだ1カ所もかじられていない。

ドローンでの資材運搬の検討を独自で始めている。山形県でDJIで30kg運べるというデモフライトに参加した。そのドローン業者とウェブ会議で、白雲で実証するにはどうしたらいいか環境省と上川町も同席して検討した。来年はデモフライトまで持っていけそうと思っている。この時は30kgが上

限だったが、今 DJI は 100kg 乗せて飛ばせるものを作っている。50kg の、電気で動くドローンが安く
なったら買いたと思っている。

白雲岳避難小屋・忠別岳避難小屋のトイレ改修案を去年出したが、建築士を呼んで視察してもらった
ところ、素晴らしいアイデアが出た。今回は報告書が間に合わず、今度お話する。環境省からも進捗
がいつか話されると思うが、白雲についても忠別についても、運搬経路・運搬方法が確立しない限り
は手をつけられないとのこと。

環境省から報告があった資料 1-1、p19 の登山道外のマキセル工が、これをやったらまずいぞという
施工になっている。私はその指摘係だったのでこれは指摘した。でも、業者さんが自分で考えてこう
やった。去年、一生懸命色々伝えたが、こういう風な土留めにしたって両脇から土砂が逃げる土留
めになっているので、これでは話にならない。業者さんだけだということすら気づけないのかと
思って愕然とした。なので、設計会社がいたとしても、しっかりした施工にするためには土木業者さ
んだけではちょっと厳しいのかなと未だに思っている。

・ **鹿追町ジオパーク推進課・大西氏**

高原沼でヒグマの付きまといがあって専門家と色々相談したとお話されていたが、差し支えなければ
誰とどのような協議をされたかを簡単にでも教えていただきたい。

・ **北海道山岳整備・岡崎代表**

酪農学園大学の佐藤先生に上川総合振興局から質問をしていただき、こういう風に考えた方がいいよ
というアドバイスをいただいた。

・ **鹿追町ジオパーク推進課・大西氏**

まだ事例はないが、今後起きない可能性がないということはないので、誰に相談したらよいかという
疑問があった。

・ **北海道山岳整備・岡崎代表**

資料 1-3 のヤンベタップ五色岳線改修工事は 700m か 800m の区間でいくらかかったか教えて欲しい。
上川総合振興局では同じグレーチングの作業をするのに、600m の区間で毎年 200 万ずつ、計 800 万円
で可能だった。。

・ **十勝総合振興局・吉澤主幹**

具体的な金額は言えないが、入札時で約 7100 万で契約し、ヘリコプターの飛行回数や廃棄物量が増え
て若干増えている。業者の方に一月以上山の上で降りることなく作業していただいたという言うこと
もあり、色々な面で金額が増えていると思われる。

・ **北海道山岳整備・岡崎代表**

上川総合振興局のほうは儲けが一切出でおらずどちらかというと持ち出しもあり、ボランティアやロ
ープウェイの協力がないとできないところなので、あれで続けるというのも問題だが、7000 万以上か
けないと 800m の木道を直せないのは乖離があり過ぎるのではと思っている。登山道に関わる民間団
体はこれからもっと増えなきゃいけないし、技術者を育てるには現場も必要になるが、同じお金を使
うのであればそういうところに振り分けてもらうのもありなのかなと思ってスノーモビルの調査等
色々やっている。検討できるのであれば、10 倍のお金をかけるよりは、民間の育成という形でどん
どん作っていただきたいという思いもある。

・ **山岳レク研・山口事務局長**

コンサルをしていたから公共事業の発注形式も知っているし、昔はそれしかなかったが、今はそれ以外の手段も大雪ではできるようになってきているので、色々な仕組みや行政の段取りをシフトしていないと、全く効率が悪い。スペース開発でも今は民間が効率よくやっていく時代なので、同じようなことは考えないといけない。

・北海道大学大学院・愛甲教授

白雲と忠別のトイレの件は、2月のトイレ部会で資料は出されるのか。せっかく調査や設計の案を出していただいたのであれば、トイレ部会でそれが共有されるのかを確認したい。

・大雪山国立公園管理官事務所・友野

まだ議事は検討中であり、何かしら資料を出したいと思っているが詳細は決まっていない。できれば岡崎氏にもご相談しながら組み立てていきたい。

・北海道山岳整備・岡崎代表

そこで検討されるかどうかは別として、情報の共有は行いたいと思っている。

(2) 令和6年度登山道補修技術検討会について

- ・事務局・友野より資料2に沿って、歩道等維持管理作業実施手順マニュアル案の修正と確定に向けて進めていくこと、登山道維持管理データベースの目的等の再検討が必要とされたこと等、当日午前実施した同検討会の結果概要を報告。
- ・同検討会の設置要綱案については、検討会で特段の修正無く承認を得られたため、本部会の議事の最後で承認を得たい旨説明。

(3) 大雪山グレードマップ英語版の増刷について

- ・事務局・高橋より資料3について説明。

■質疑

・北海道大学大学院・愛甲教授

大連協 HP に、大雪山を4つのエリアに分けた登山グレードマップの英語版が載っているが、これはいつ作られたものか？

・事務局・高橋

かなり古いもので、何年に作られたものか分からず、原本も見当たらない。

・北海道大学大学院・愛甲教授

結構古い地図だと思って見ており、今の日本語版のグレード表記を英語に変えるのが一番手っ取り早いとは思いますが、古い方は消すなど情報を揃えた方が良いでしょう。

また、今の To All Mountaineers の裏面ではトイレのことはかなり小さくしか書かれていないため、もう少し書いてほしい。今の日本語版グレードマップにはブースの位置なども記載されており、ちゃんとした説明がないと外国人には携帯トイレブースって何だと言うところから話が始まってしまいう。場合によっては山のトイレを考える会に協力していただいた上で、もう少し充実させて書いていかないと、外国人に使っていただくということには結びつかない。構成員のロバート・トムソンさんにも見ていただいた方が絶対良いと思う。

・山岳レク研・山口事務局長

制作年月日を印字すると良い。例えば、電気製品のカタログにも必ず何年製と書いてある。

・事務局・高橋

日本語版グレードマップには制作年月日を書いており、次回から英語版にも印字する。

・北海道山岳整備・岡崎代表

内容を充実させるためにお金をかけて作って欲しい。今、山岳の事故を起こしたり、問題を起こす人のほとんどが外国人になってきた。お金をかけてでもちゃんとした情報を伝えるべき。ヒグマ情報センターも裾合平も、一日歩いたら半分ぐらいは外国人という日も増えてきた。ニュースを見ても外国人の方がというのは連日出てきている。情報はお金をかけるぐらい大事なもののだから、やらないよりましと言う感じの結果ではダメだと思う。

・事務局・杉本

ロバート・トムソン先生にはアドバイスをいただくようにする。お金をかけるということでは、印刷の枚数を少し少なくしてでも良いものを作って、例えば来年度の大連協の予算で増刷分のお金をいただくといった方向で考えたい。

・Asahidake Trail Keeper・藤代表

あらかじめここに来る前に知っていて欲しい情報もあるので、大連協のウェブサイトが今どれだけ英語に対応しているかわからないが、マップの URL を掲載しておくなど、ここに来る前に情報を手に入れられる手段があると良いと思った。

・北海道大学大学院・渡邊教授

トムソン先生はニセコで冬のスキーのマップを作って相当経験がある。大雪山に対しても相当文句を言いたいみたいなので真剣に話をしに行つて良いと思う。

・山樂舎 BEAR・佐久間代表

基本的には全く一緒だが、ほとんどの人がインターネットで情報を収集してから来るから、インターネットにお金をかけた方がよく、紙媒体は従でよい。

また登山道部会の話ではないかもしれないが、冬はバックカントリーで来る外国人が多く、そちらにもある程度の重点を置かないと、遭難はいつまで経っても増え続けると思う。

・北海道大学大学院・渡邊教授

地図はウェブやアプリがどんどん使われているところ、紙媒体の印刷は逆行していて、本当は予算の無駄遣いだと思う。お金は使うべきといっても使い方の問題で、本当はデジタル化してダウンロードするなり、アプリをそのまま作るなり、そういう形で本当は使えるようにする方がいいと思うので、その辺りの議論も環境省でお考えいただけるとよい。

(4) 令和6年度大雪山国立公園入山者数調査結果

・事務局・上村より資料4について説明。

■質疑

・山岳レク研・山口事務局長

熱感知式カウンターはエコカウンターか？また、人感センサー式のカメラと言うのは、カメラに映ってからそれを数えると言うことか？一枚一枚数えているのか。

・事務局・上村

その通り。

・山岳レク研・山口事務局長

エコカウンターは割と正確だと思うが、測り出してから10年以上経過していると思う。時々検証はしているのか？検証とは、人間がついて人間が見たカウントとカウンターのカウントが一致しているかということ。

・事務局・上村

行っていない。

・山岳レク研・山口事務局長

どこかで検証しておかないと、間違った数字が積み上がってしまうと思う。

・北海道大学大学院・愛甲教授

エコカウンターもセンサー等がバージョンアップしてきているので、検証は古いカウンターの場合はした方が良いでしょう。

また、LRカウンターとエコカウンターを並べて設置して検証した時に値が大部違ったことがあったが、並べて置くとLRカウンターが発射している赤外線がエコカウンターが感知して、それによってエコカウンターの値がおかしくなるということがこの間分かった。それも気を付けた方が良いでしょう。

もう1点、先ほど入山者数のところで属性がわからないという話があったが、黒岳の入山者数がかなり伸びてきているのも、内訳の中にかなり外国人が入っているはず。大雪でも時々はどういう属性の人が入ってきていて、どう変化しているかというデータも把握しておかないと、色々と対策をするときに、数だけではなかなか不足してくる部分もあると思う。入林届の分析や、実地のカウントも行った方が良いでしょう。

（５）部会規約改定（構成員の追加）の予定について

- ・事務局・永田より、第7回部会で渡邊教授よりご提案いただいた福山市立大学澤田教授の本部会への参加について内諾をいただいていること、5月の総会時に部会規約の改定を行う予定であることを報告。

3. 議事

（１）登山道等の協働型管理の進め方について

- ・事務局・永田より資料5について、資料5-2の工程案は前回部会時に共有した際のままであるが、次の部会までに令和6年度の実施結果や令和7年度の維持管理、工事等の予定も反映させたいこと、また本日は工程案に記載されている取組事項や課題について今後どのような行動を起こしていけば良いか、ざっくばらんに意見交換したい旨説明。

■質疑

・山岳レク研・山口事務局長

工程案は、環境省の協働型管理体制手引書の中の行動計画と読み替えても良いか。梶氏がおられた頃に協働型の体制になり、環境省の手引きに従ってビジョンを作成した。しかし、梶氏は時間がなくて行動計画を作っていかなかった。午前中に岡崎氏から指摘があった、具体的な話が抜けているというのはこの行動計画が作られていないからであり、理念は良いがその下に何をやるかという具体的な計画

がない。なので、工程案は行動計画だと思っているが、その理解で良いか。

・事務局・永田

そのご認識の通りで間違いない。

・北海道大学大学院・愛甲教授

当部会の規約には、部会でやらなければいけない取組内容は書かれていない。それを整理し、進捗をチェックして計画を立てて、積み残したものはちゃんと形にしていくという手続きが必要になり、それを皆で整理して確認していくことが必要だと思うが、そもそもそれをちゃんと部会でやりましょうという話になっているのか。今回はちゃんとこの資料を付けていただいたのは良いことだと思うが、そもそも部会でこれをどう扱い、位置付けするかをはっきりさせ、毎回これを確認するようにした方が良い。なので敢えて質問している。ビジョンは大連協全体の話だが、登山道の行動計画を扱うのはこの部会で、この工程案を作って進めていくというのは何か位置付けられているのか。

・事務局・友野

大雪山ビジョンは大連協で議論して決定し、国立公園の管理運営計画書にも載っている。また行動計画は管理運営計画には直接位置づけられていないのと、協議会規約や部会規約にも明記はされていない。一方でその必要性は仰られている通りで、それを実際に進めないといけないが、この工程案も先ほど永田が答えた通り行動計画そのものだと思う。なので、これをしっかり組み立てて、何が必要なのか洗い出して、それを実行していくというところやらなければならない。午前中に話題になった登山道の付け替えといったところも、きっとこの資料が議論の出発点になるべきで、こういった作業が手もついてない状態が出さざるを得ないというのは本当に申し訳ないと思うが、それが今の現状でもあり、ひとまず今後何とか進めていきたい。

・北海道大学大学院・愛甲教授

そう言っていただけて良かった。ビジョンの整理が必要で、工提案は登山道部会の行動計画ということだがその関係も整理しなければならないし、これが毎回部会に出てきて、皆で確認していくという位置付けにしておかないとならない。やってもやらなくてもいいような表になってしまって、人が異動したりすると、これは何なんだったつけという話になってしまうので、そうならないようにしておいてこそ、管理の話ができてくると思う。

・北海道山岳整備・岡崎代表

本当はビジョンと行動計画が結びつくという話があったが、自分は登山道整備をする前に、50年後この道はこういう風な植物があって、道幅はこれ位が保たれていて、どれ位の利用があってそれによってどれ位のお金が落ちて保全に使われるかという想定をしてから作業を始める。国立公園はそうなるべきだと思う。例えば、白雲の土嚢をむちゃくちゃ積んでいるが、それも50年、100年経ったらここがきっとこういう風に変化するはずだというイメージを基に積んでいる。ヒグマ情報センターも、50年後、100年後、ヒグマが人に近づいてくるのは嫌だけど、ヒグマが残っているという前提で、その時にどれ位の利用者数であればバランスが取れていて、その時にどれ位のお金が集まる場所で、そのお金がどこで使われるかといったことを想定して人に話している。それがあって何をやるかが大事で、管理に関わっている方はそこを具体的に考えて欲しい。どこか特定のルートを思い浮かべて、ここは50年後こうなっていて欲しい、20年後こうなっていて欲しい、そのために今こういう風にやるんだという風に考えないと、問題が起きてからそれを解消する後手に回った行動しかできなくなると

思う。そう考えると、利用と保全は全く分けることがなく、利用のお金で保全を使い、トイレも含めて全部繋がってくる。だから、工程案で項目を個別に分けるのは必要だが、本来は何のためかという具体的なイメージ、絵に描いたものを共有したい。それに近づけるために何をしたらいいのかを考えていくというのが抜けていると、ただ文字にして、23年、24年、25年と引き続きのことやりますというだけの話になっていて、新たにここをこうしなきゃいけないからこうするんだというものがあまりない。そこがはっきりと見えて、今集まってくれた人たちだけでも共有できないと話が進まないと思う。ここに集まっている人の中では、管理の部分もあるし利用の部分を考えている人も多いはずだが、目標を一緒にする、ビジョンを一緒にすること、50年後、100年後、こういう場所にしたいというのがスタートだと思うので、絵に描いて皆がイメージできるものにして、それを具体的なものにするための行動計画はあった方がよいと思った。

・ **上川町産業経済課・畠山係長**

令和4年12月の登山道部会で「大雪山国立公園における登山道等の協働型管理について」という資料が出ていて、今のような話が出されている。今回の資料はビジョンに基づく登山道の協働型管理についてということだが、協働型管理というところがこの資料を見ただけではピンとこない。例えば上川町で行っている協力金の話や、クラウドファンディング事業、利用者やボランティアなど皆も含めて作業していくといった部分が根本的に抜けていると思うし、ではどうしていけばいいかということが全然見えない。これからどういう方向でその協働型管理を進めていくかを資料にまとめるに当たっては、令和4年12月の登山道部会の資料と合わせて、皆で確認し合って進めた方がよいと思った。

・ **事務局・友野**

ビジョンと行動計画は、環境省の国立公園の管理運営計画書や作成要領の中ではいくつかの段階で整理されており、まずビジョンがあって、大雪山国立公園の管理運営計画書では管理運営方針が記載されている。その中に、個別の保全方針、利用方針、それに基づく取組事項、指導事項、遵守事項という風に、管理運営計画書ではそれなりのページ数を割かれて記述されており、その下に、それらに基づく大体5年から10年スパンの具体的な行動計画が来ると思う。なので、今の工程案だとビジョンがあって、いきなり細かい内容に来ておりその間がない。50年、100年後の目指すべきところといったものも管理運営計画書に書いてある部分が既にあると思うが、そういうところを含めて整理していくのが具体的な作業になってくるのではと想像している。今日のご意見も踏まえて、まずは事務局で手を動かして整理を進めて、具体的な行動に繋げるようにしていかなければならない。

・ **北海道大学大学院・渡邊教授**

50年後をどう考えるのかは私も色々な場所で話しているが、それを我々はやってきていない。皆さんも頭の中で必要だと思っているかも知れないが、とにかく事務局で、じゃあ次の部会は2時間取りますという形で時間を取るか、でなければ何人かで集まって原案を作ってそれを次の部会で議論するか、そういう時間をきちんと取らないといつまで経ってもこの状態が繰り返すと思う。皆さんそれぞれ頭の中で分かっているけど、私も含めて忙しかったりしてどうしても先延ばしになっているので、どこかで時間を作って無理やりでも進めないと議論がいつも同じことを繰り返すことになる。事務局で戦略を立てて、時間とエネルギーを使うんだということを示していただければ皆さん付き合ってくれと思う。よろしくお願いいたします。

（２）登山道補修技術検討会設置要綱について

- ・事務局・友野より、報告事項（２）での説明に基づき現案にて承認を得たい旨説明。

■質疑

・山樂舎 BEAR・佐久間代表

登山道維持管理部会規約のことになるが、表大雪と東大雪を分けておく必要は何かあるか。以前の情報交換会は対面で行っていたため開催場所も色々あったが、コロナ禍以降はほぼ上川か東川で、ウェブ参加が普通になってしまった現在において、分けておく必要があるのかという気がしている。大雪山国立公園管理事務所は上川にあるが、常に上川で行うようにしておけば、敢えて東と表を分ける必要はないと感じた。

また、去年の大雪山国立公園 90 周年の機会で、今から約 100 年前の地図を見ると登山道は今と全然違うところを通っていた。現状の登山道を維持するという前提はひっくり返して、最初から科学的なデータに基づいて登山道自体を整理し直すということも、この部会ではないのかも知れないが真面目に考えた方がいいと思っている。

・事務局・友野

1 点目に関しては、表と東で分けて名簿を作っているが状況としては仰る通りだと思うので再検討ができればと思う。

2 点目は、先ほどから話題の協働型管理の工程案や行動計画といったところで具体の議論ができるように準備を進めるべきと個人的に思う。

・北海道大学大学院・渡邊教授

現状では 2 つの部会があるが、運用の仕方現実には一本化されたに近い状態でもあるのでできればまとめていただきたい。

設置要綱については、特になければこれでご承認をいただいたということで、本日付けで施行とする。

4. その他（報告事項や共有事項、意見や質問）

・上川町産業経済課・畠山係長

白雲岳避難小屋利用について、現場では色々苦労があり、今一度正しい山岳利用をお願いしたいところ。例えば、夜中に小屋に到着して、次の日は天候が悪いのにトムラウシを目指すお客さんがいて管理人が止めたとか、怪我をして血だらけのタオルをそのまま放置して出ていったことや、ヒグマが出ていると言う話を聞いて敢えて探しに行くような人もいた。HP で混雑状況を掲載しており、混雑状況を知って行くのを止めたと人もいるかも知れないが、隙があったら予約していない人が行って空いてラッキーだったというようなこともある。来年度以降の適正利用としてお願いしたいところであり、岡崎氏からも何かあれば発言願いたい。

また大連協とは直接関係はないが、日本遺産の再認定審査が 7 月にあり、12 月下旬に継続認定をいただくことができた。ただし手放しで喜んでいるわけではなく、文化庁が求める地域活性化、いわゆる地域に金を落とす仕組みを作らなければならない。また、私としてはお金を落とすだけでなく、大雪山も文化財なので、その文化財を守る取り組みに関してもう少し文化庁も評価して欲しいと強く思っているところ。新たな地域振興計画も加えさせていただき、佐久間氏にも色々ご協力いただいた

り、岡崎氏の取り組みを文化庁の方に話させていただいたりしている。町として金儲けをするだけでなく大雪山を保護する取り組みを色々考えていかなければいけないと感じている。

・北海道山岳整備・岡崎代表

白雲岳避難小屋の現場の管理では畠山氏の仰る通り、ルールやマナーといった言葉にしたくないが、それが滞っている部分が多いと思う。解決する方法としては利用料金を上げた上で予約制にすることで、お金をちゃんと払う人は相対的にしっかりしている。お金を払わなくて良い、俺の山だ、と言う人ほど、ヒグマに近づいたり、昔からこうなんだという人が多い。皆さんもご存知の通り、忠別小屋やヒサゴ小屋のトイレの中に何が落ちているか、ゴミの方が多い。だから料金を上げるというのは大事で、そのためにトイレのし尿の運搬方法は今自分達でも考えているし、ヒグマの対策もタダではできない。電気柵を買うにしても10万円以上かかるし、その点検も人工が必要になってくる。登山道整備も整備人2人では足りない。利用を存続させるためには管理が必要で、それにはお金がかかるということをここに人たちは認識していると思うが、それを他の人に伝えていくことが大事だと思うし、そのために正しい管理をするスキルや知識を身につけなければならない。それができた段階で協力金を得ようという話になるはず。なので、技術者の育成に力を入れたいと思うし、ここに皆さんも含めて、色々な形でしっかり価値のある大雪山というところに持っていきたいと思っている。

・北海道大学大学院・愛甲教授

1月18日に山のトイレを考える会が日本自然保護協会の特別表彰を受けることになった。同会は約20年活動しているが、大雪山でも情報の普及や美瑛富士での取組等が評価されたと思う。

・山のトイレを考える会・小枝代表

日本自然保護大賞の2024年選考委員特別賞を受賞することになった。これは当会だけではなく、多くの皆さん方と活動した成果だと思っている。今後とも何とか頑張って色々なことを協力して続けていきたい。

<以上>